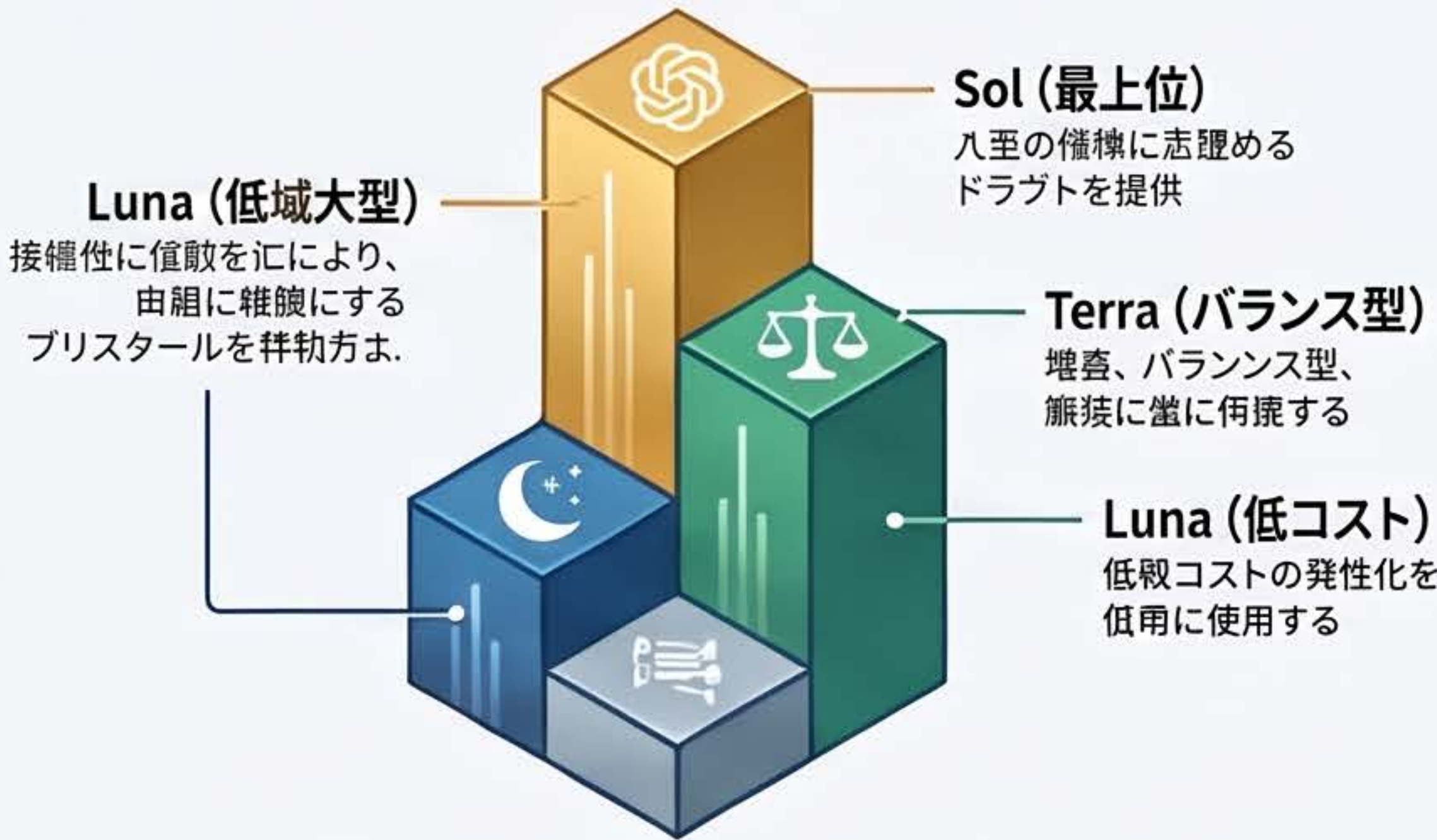


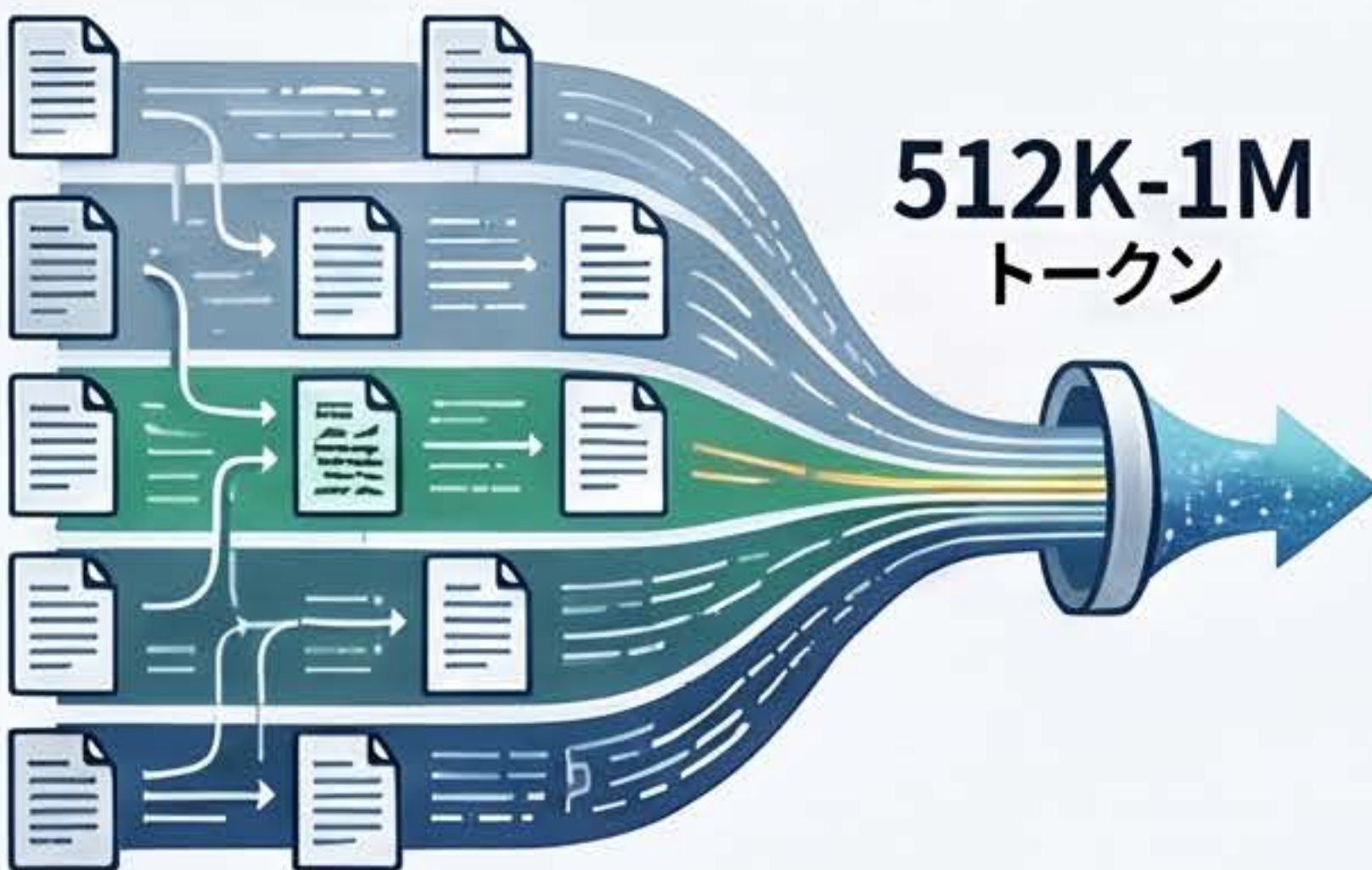
OpenAI「GPT-5.6」・「ChatGPT Work」の衝撃：知財実務はどう変わるか

新技術の概要と知財実務への適性

GPT-5.6は「三層モデル」で提供



512K～1Mトークンの長文処理に対応



大量の特許公報や技術文書を一度に読み込み、
正確に要約・分析する能力が飛躍的に向上しました。

ChatGPT Workによる
業務自動化



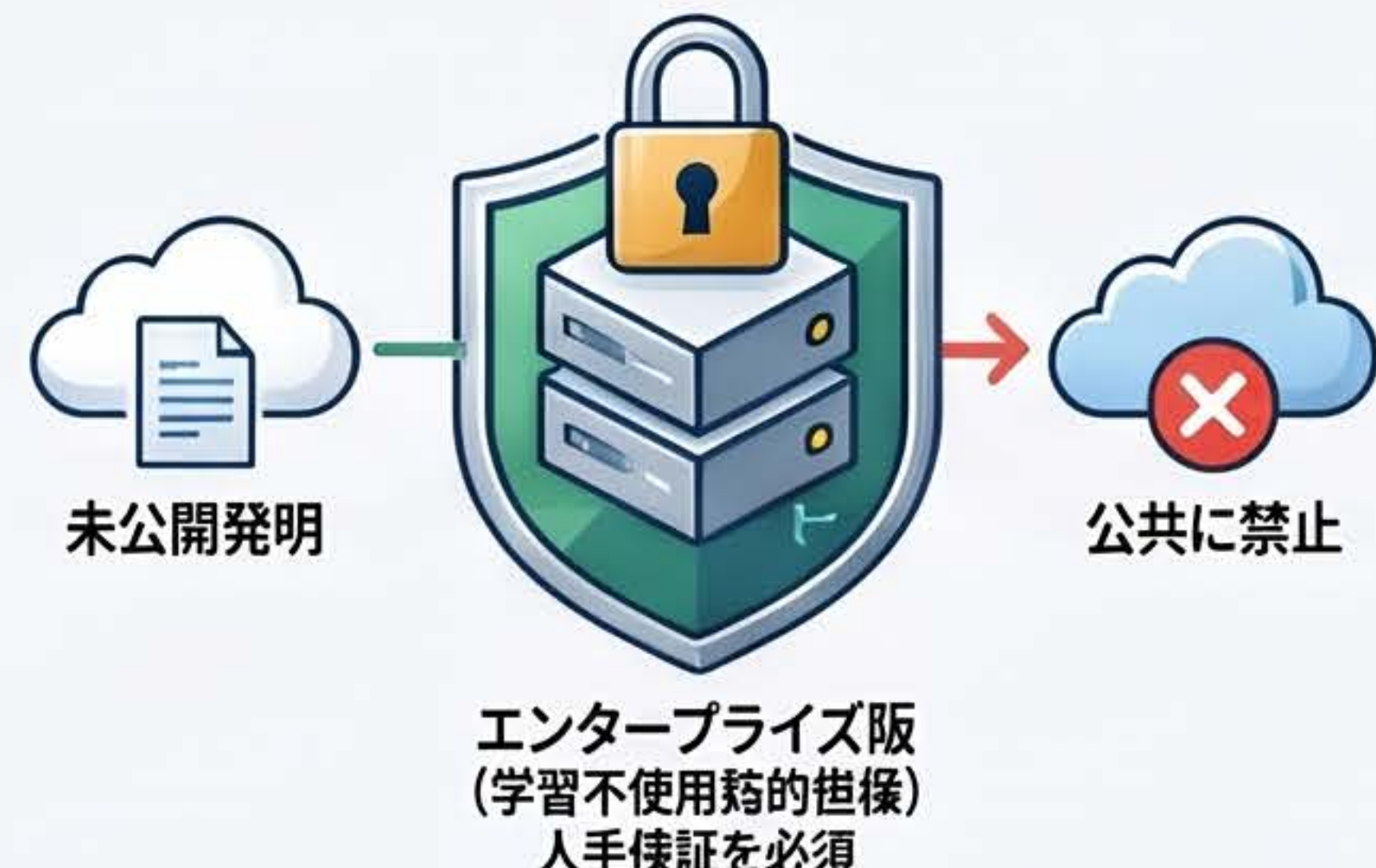
SlackやDriveと連携し、数時間に
わたるプロジェクトを自動的に進める
エージェント機能を搭載しています。

知財業務への影響と導入戦略

汎用AIと知財特化型AIの「二層構成」

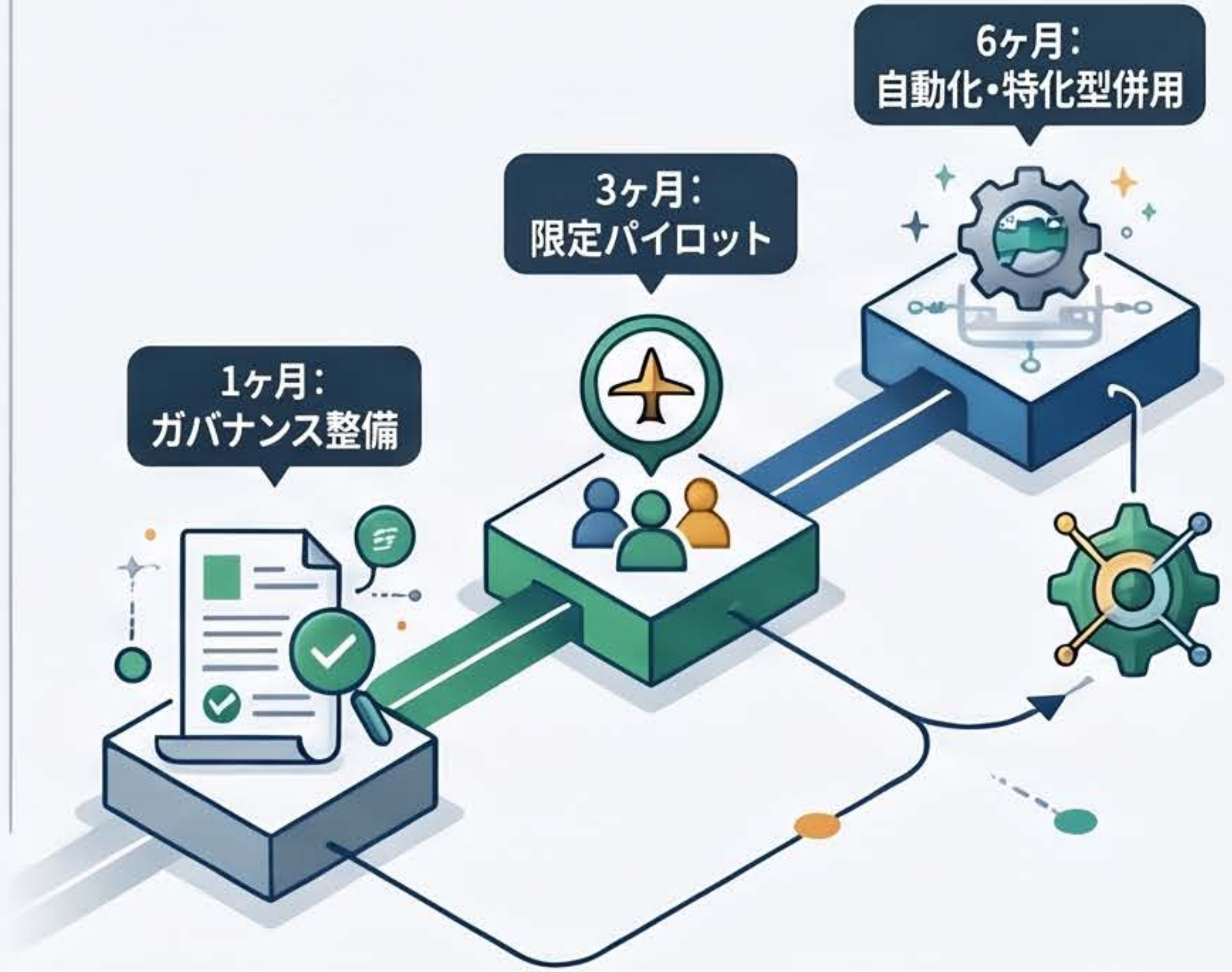


弁理士法と守秘義務への厳格な対応



未公開発明の入力は、学習不使用が契約担保された
エンタープライズ版に限定し、人手検証を必須とします。

3段階の推奨アクション



主要なエンタープライズAIの知財実務における特徴を比較する。

ツール名	主な強み	知財特化の適合度
ChatGPT Work	自動化エージェント・ 高度な長文処理	汎用 (専用DBとの 併用推奨)
Claude (Fable S)	法務プラグイン・ ハルシネーションの少なさ	Claude for Legalに よる高い類推性
Microsoft 365 Copilot	Word/Excel等との ネイティブな統合	汎用 (M365満産の 活用に強み)